

感染症情報 5月16日～22日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1559例（堺市 63例）
②溶連菌感染症	631例（堺市 44例）
③おたふくかぜ	245例（堺市 12例）
④咽頭結膜熱	143例（堺市 8例）
⑤突発性発疹	113例（堺市 6例）

が報告された。

感染症は全体として前週から10%増加し、上位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。溶連菌感染症は前週より更に20%と増加傾向が続いており、保育所、幼稚園で流行しているところがある。リウマチ熱や腎炎の発症を予防するため、抗生剤の10日間服用が推奨されている。おたふくかぜが流行している園があり、髄膜炎の合併が多く、任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）もわずかではあるが、増加して第4位に入り、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。全国的にも増加傾向であるので、注意したい。同じく夏型感染症のヘルパンギーナが堺市内で急増しており、第6位となっている。

はしかと風疹の報告はなかった。